

正々堂々

益城町立木山中学校
第1学年通信 第6号
令和2年12月15日
文責：

「非の打ちどころがない」という悪徳？

1年生の国語の教科書に「少年の日の思い出」という、ヘルマン＝ヘッセの小説が載っています。チョウ集めに夢中になった「ぼく」が、隣に住んでいるエーミールのクジャクヤママユをつぶしてしまい、最後に自分の大事にしていたチョウの収集を粉々に潰してしまうというお話です。子どもたちの感想に「生きていく中で、一度やってしまったことは、やり直しのできない、償いのできないことがあるのだ。」という感想が見られました。

この小説の中で、エーミールの性格を「この少年は、非の打ちどころがないという悪徳を持っている。子どもとしては2倍も気味の悪い性質だった。」とあります。

「非の打ちどころがない」の意味は、欠点がない、完全である、ということです。失敗を犯してしまう「ぼく」と対照的な存在として描かれています。

さて、わが子はどちらのタイプでしょうか？模範少年の「エーミール型」でしょうか、失敗を犯してしまう「ぼく型」でしょうか？

子どもは失敗をすることで成長していきます。一見、模範少年のエーミールもきっと失敗をしながら成長しているはずですが、大切なのは失敗から何を学ぶのかということだと思えます。大人は失敗を何もなかったことにしがちですが、逃げずに何がいけなかったのか、見つめることが次の失敗を生まないためには大事です。

この小説の中で、失敗をしてしまった「ぼく」の告白を聞いたお母さんが「今日のうちに謝りに行きなさい」とわが子にアドバイスします。決して、一緒に謝りに行ったりしません。でも、後ろから「ぼく」と同じ気持ちで見守っています。親としてあるべき姿がそこにあります。

今年の漢字は「密」だそうですが・・・「恕」という漢字をご存じですか？

中国の思想家に、孔子という人がいました。弟子が質問をします。「人として何か一つ大切にしたら何を大切にしたらよいのでしょうか？」と。しばらく考えた孔子は「そうだな。それは恕ではないかな。」

漢和辞典で「恕」（ジョ）の意味を引いてみました。恕とは、「自分を思うのと同じように、相手のことを思う。また、その気持ち。思いやり。」とありました。

2000年以上昔から人間はきっと「恕」の気持ちを持つことが難しかったのではないのでしょうか。現在の私たちも自分中心に物事を考えてしまい、相手の立場でものを考えることがなかなかできません。漢字一文字ですが、憶えておきたい言葉です。

1年生は、2学期の人権学習で「今、言わなければ」という題材で学習をしました。学級内でいじめが続いていることに対して「おかしい」と訴える一人の女の子。自分も声を上げなければと葛藤する「ぼく」。傍観して、声を上げない集団では、いじめをなくすことはできないことを学んでいます。

12月10日の美化活動ビフォー&アフター

3校時の総合の時間に1年生全員で美化活動を行いました。活動内容は、学校敷地内の「落ち葉集め」や「草取り」です。活動の初めに、JRC（青少年赤十字）ボランティアの精神「気づき・考え・行動する」ことを念頭に取り組みようと話していました。生徒自らが主体的に取り組み、びっくりするほどきれいになりました。

新型コロナウイルス感染予防のため

新型コロナウイルス感染予防のため、暖房と同時に教室内の換気を行っています。教室の4隅の窓と扉を15cmほど開けています。廊下側の窓も4分の1ほど開けます。そのため、教室内でのジャンパーやウィンドブレーカーの着用を認めています。（派手な色やフード付きはだめです。）